

11 建築とコンピュータ

建築ITコミュニケーションデザイン論 #11

2014-07-02 (水)

本江正茂

建築とコンピュータ

- 「コンピュータの中の建築」
- 「建築」と「建物」“architecture” and “building”
- 「建築」=建てられたモノ かつ 建てるというコト
- 建てるというコト
- 建築家は、つくりかたをつくる
 - ミース・ファン・デル・ローエ「われわれは秩序を持たねばならない。秩序とは、それぞれのものをそれに適した所に置き、それぞれのものに、その性質に応じた役目を与えることである」
 - ル・コルビュジエ「建築する、それは秩序づけることなのである。何を？すなわち諸々の機能ならびに物体を秩序づけること」
- 「建築」=世界を秩序だてること

「機械」という世界モデル

- ル・コルビュジエ「住宅は住むための機械である」
- 「機械」モデルの失効
- 機械から建築へ
 - 機械=普遍性+大量生産性
 - 建築=個別性+一回性
- 「建築」=世界モデルとしての「建築」

計算する機械

- 計算するだけの機械→目的のない機械→理解しがたい機械
- 訳の分からないものに対して、人はメンタルモデルを適用する。
 - メンタルモデル乖離の悲劇：立川志の輔「みどりの窓口」
- コンピュータを理解するためのモデル=人格モデル or 空間モデル
- デスクトップメタファー
- 「環境」としてのコンピュータ
- 「建築」と「コンピュータ」

「環境」と「世界」

- ユクスキュル、マックス・シェラー、ハイデガー
- 生物は「環境緊縛性」のうちにあるが、人間には「世界開在性」がある。
- 「世界」=「環境」の可能性の全体
- 世界の可塑性への信憑が環境をデザインする行為の基礎

参考文献

- 坂村健、鈴木博之編『バーチャル・アーキテクチャー：建築における可能と不可能の差』東京大学総合研究博物館,1997
- レイナー・バンハム『第一機械時代の理論とデザイン』石原達二、増成隆士訳、鹿島出版会、1976
- 木田元『ハイデガーの思想』岩波新書、No.268、1993